

かなえ

第165号(令和8年7月)

医療法人社団鼎会 三和病院

松戸市日暮7-379 ☎047-712-0202

<https://sanwa-hp.jp/>



医療法人社団鼎会 八柱三和クリニック

松戸市日暮1-16-2 ☎047-312-8830

<https://sanwa-cl.jp/>



大出の吊り橋をスケッチ

今回は北アルプスの山々が遠くに見える、定番の風景です。山の峰々がすぐそばに、また手前には川が流れ、吊橋をバックに絶景の場所です。

スケッチクラブでも何回かこの場所におとずれてます。5月のシーズンになるとカメラマンだらけで、車も止められません。スケッチ会でも何回もおとずれたとっておきの場所でもあります。

絵、文 菅谷功 2026年●月





「意思決定」という言葉を聞いたことがありますか？

「意思決定」とは、ある目的や問題解決のために、自分自身で複数の選択肢の中から最も望ましいと判断した事を選び、行動を決めるための過程のことを指します。日常生活からビジネス、政治まで幅広い場面で直面する人間の基本的な認知活動を意味します。

医療においても「意思決定」は必要不可欠です。

平成19年、厚生労働省は「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」を策定、平成30年には「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」として改訂し、全ての病院施設に対し「意思決定支援に関する指針を作成すること」などが定められました。

通院・入院(急性期・慢性期)の方々との「意思決定」を一緒に考える日常でさえ、我々医療者がどのように向き合えば良いのか迷うところです。患者さん毎に生活環境の違い、価値観の違い、人生観の違いがあるからです。

とはいえ、「最終段階における医療・ケアの決定」とはどのような事を意味しているのか。厚労省がなぜ「最終段階における医療・ケアの決定」に力を入れているのか、一言で理解することは難しい内容です。

そこで、三和病院、ACP委員会のメンバーで、「意思決定」普及活動計画を考えた時に出会ったのが、“ヨシタケシンスケ”さんの『このあとどうしちゃう』『死に対するあたらしい向き合い方・しんだらどうなる？どうしたい？いきているあいだに考えてみよう』という絵本でした。

作者のユーモアあふれる絵と物語に人生・医療における最終段階の「意思決定」を考えやすい題材だと考え、三和病院の職員全員で絵本を読み感想文を募りました。年齢や社会的背景、職種が異なるスタッフがこの絵本を読みどう感じたのかを比較することで、同じ病院のスタッフでも様々な考え方があることを知ってもらいたいと思いました。絵本は外来・入院本棚に置いてありますので是非読んでみて下さい。

人生は何が起るか分かりません。万が一のため



に人生・医療における最終段階の「意思決定」についてご家族や友人などと話し合うきっかけとなれば幸いです。

厚生労働省
「人生会議」サイト▶



三和病院 スタッフ感想文



看護師

- 残されたご家族が、本人がどうしてほしかったのかと悩まないように、事前に話しあえる機会を持つことが必要だと感じた。(50歳代)
- 自分の家族が、自分自身がと考えました。思いを知ること、思いを伝えることで家族が同じ方向を持って過ごせたらと感じました。(40歳代)
- 生前に話ができる環境作りが大事なのだと思いました。インフォームド・コンセントが一般的になったように、ACPについても当たり前に話をする世界が早く実現すればいいなと思いました。(40歳代)
- 本人だけでなく、家族や周囲の人のためにも事前に最期の時にどうしたいか伝えておくことは大切なことだと感じました。(40歳代)
- しゅうかつと書いて終活を連想するような時代に、今まで先送りにしてきたことを考える機会になりました(50歳代)

事務系

- 死は恐怖と考えていた部分があったが、この本を読んで死に対する考え方が変わった感じがした。(50歳代)
- 人は一人では生まれてこられないし、一人では生きていけないので、人生や命は自分だけのものではない。死はつらかったり、寂しかったりするものお互い様。このおじいちゃんのように、色々楽しく考えてもらえるような死にしたい。(60歳代)
- 本当は死んだ後のことなんかではなくて今やりたいことだったのかもしれない。その気持ちをどうやって汲んであげられるか、寄り添ってあげられるか考えたいと思った。(50歳代)

コ・メディカル

- 先日、母親から亡くなったあとにして欲しい事をお願いされました。今現在、病気もなく健康体ですが、残された家族の事を思っているいろいろな考えていてくれていると知りました。その思いは叶えてあげたいと思っています。(40歳代)
- 死と向き合いながら生きるということについて考えさせられました。生きている今を大事にしながらか生きていきたいと思いました。(20歳代)
- 年齢や置かれた状況が変われば、その時々で思うことが違ってくるかもしれないと思いました。それでもその時の自分・相手の思いや考えが伝えられるといいなと感じました。(40歳代)
- 死について向き合う事は、生について考えるきっかけにもなるのだと気がつきました。時間を見つけて、家族ともそれぞれの考えを話し合ってみようと思います。(30歳代)
- 久しぶりに親と色んな話がしたくなった。「そうだ!親に会いに行こう!」(40歳代)

7月9日(木)	内 科	加藤 愛美 医師
7月10日(金)	内 科	加藤 愛美 医師
7月15日(水)	乳腺外科	北野 綾 医師
8月13日(木)	乳腺外科	酒井 春奈 医師
8月17日(月)	内 科	工田 啓史 医師 (代診 山本圭太医師)
8月19日(水)	内 科	神崎 哲人 医師
8月27日(木)	内 科	加藤 愛美 医師 ※午後のみ休診となります
8月31日(月)	内 科	加藤 愛美 医師 ※午前のみ休診となります



※この便は状況に応じて増便いたします。

※交通状況等によって時間通りに運行できない場合があります。

※日曜・祝日・年末年始(12/30～1/3)は運行していません。

※定められたバス停などはございません。

※1駅前の交番前を目安に発着しております。

※813駅前のロータリー1の駐車状況によっては、交番前に停車できない場合がございます。

※その際は、ロータリー内の可能なスペースに停車致しますので、ご了承下さい。